



みんなで協力して感染流行を乗り切ろう

現在、新型コロナウイルス感染症流行(第7波)の影響で医療体制がひっ迫しているというニュースを毎日のように目にします。当院でも、やはりその影響は大きく、感染対策のために職員みんなで協力し合っているところです。この教育だよりも今回が No8 になりましたが、この2年半、いろんなことを経験して慌てず騒がず、必要なことを粛々と行っていく姿勢が身についたように思います。感染流行で大変な時は無理せず業務を減らし、少し落ち着いた時にやることをやる。コロナを理由に何もかもやめてしまうのではなく、今、本当にやるべきことに絞って、みんなで分担してやっていく。気持ちが萎える時もありますが、必要なことを行っている実感を持てるのが、長期にわたる苦しい時期を乗り切るには大切なことかなあと思います。ということで、4月から行ってきたことを書き綴っていきたいと思います。

上半期の研修状況

【新人研修】

6月に新人看護師技術演習の一つ、心肺蘇生についての研修が行われました。研修は、講義ではBLSの知識の確認と、当院の救急対応のマニュアルと仕組みを学び、演習でシミュレーターを用いて手技を確認しました。演習では心肺停止している患者さんを発見したところから始まり、実践形式に近い形で行われました。参加者からは、「体力が必要。」「スタッフが連携、協力しておこなうことがとても大切だと思った。」との声が聞かれました。



【リフレクションと看護倫理】

こんな時代なので、自分たちの行っていることを見直すことの大切さを感じて、今年の管理者研修は「リフレクション」、そして看護部全体では「看護倫理」の研修を行っています。リフレクションは、過去の出来事を振り返ることで自分の持っている固定観念やパターンに気づいて、新たなより良い行動を見出すことで、師長会議と主任会議で講義とディスカッションを行いました。看護倫理は看護協会や精神科看護協会の倫理綱領が昨年改訂されたので、その内容を資料で配布し学習するとともに、各部署で自分たちの実践を倫理カンファレンスでリフレクションしてもらうことにしました。看護部長や看護教育の2人が各部署に出向いて、一緒に考えます。全体での集合教育は難しいですが、部署で学習の機会を作ることは可能です。部署の状況に合わせて、何度も延期をすることもありますが、時間をかけてじっくり行っていこうと思います。

【看護研究コース】

今年度も、看護研究は3グループが取り組んでいます。コロナ禍の職員のメンタルヘルス、患者様へのコロナの影響、精神科で看護師が長く働くことができる理由、それぞれの研究者の関心に沿った研究計画を立てています。残念ながら、感染流行の影響で予定通りのスケジュールで進めるのが難しい状況もありますが、前向きに研究を行ってほしいという姿勢には頭が下がります。実践の質向上を目指して、がんばってもらいたいと思います。

病院見学会の開催

4月号には、病院見学会の Web 開催を考えると書きましたが、その後いろいろ考えて、短縮版で病院見学会を行っております。病院の概要や教育体制を説明し、短時間で2病棟を見学してもらい、先輩看護師と交流という内容で、今年度は4回実施しています。個別対応は行っておりますので、ご希望の方は看護部長の林(m-hayashi@8seikai.jp または [052-791-2133](tel:052-791-2133))までご連絡ください。

紙カルテの整理

電子カルテを導入した後にしばらくは紙カルテの内容を参照しておりましたが、年度も変わり、参照する必要性も少なくなってきましたので、5月に外来カルテ、6月に病棟のカルテを回収しました。と書くと1行で終わってしまいますが、実際には外来カルテが約3000冊、病棟カルテが約300人分(分冊カルテもあるのでその数倍以上の量)のカルテ、もともとカルテ庫にあった何万というカルテも移動させるので、めちゃくちゃ大変な作業でした。

カルテ庫1つでは入りきれないので、今まで物置ようになっていた別のカルテ庫を整理・大掃除して、準備もしなくてはなりません。そして、カルテは番号順に並んでいないと探せないで、各部署からやってきたカルテを番号順に並べて、カルテ庫のものと併せて並べ直すのです。当院は昭和27年に開設された歴史の長い病院なので、古〜いカルテもあり、傷んだところの修繕も必要でした。外来や病棟から何人も応援に来てもらい、計2〜3週間かけて、みんなで汗だくになりながらやり遂げた時は達成感と同時に、こんなにたくさんの方の診療を長きにわたり行ってきた時間の重みも感じました。

写真は、物置小屋からカルテ庫に生まれ変わった後の姿です。物置小屋だった時の様子はお見せできませんが、床がクリーム色になった時には感動ものでした。それと、清浄な空気のために掃除は不可欠だというナイチンゲールの主張(参考文献:「看護覚え書」)は正しかったと身をもって学ぶことができました。



一致団結

昨年11月に電子カルテが導入され、その後始めた紙カルテの整理が想像以上に大変でした。開始は冬でしたが、終了の目途がついた頃には季節も夏に変わっていました。膨大な量のカルテ整理、カルテ庫の掃除と何度弱音を吐いたかしれません。各部署からたくさんの方に応援にきていただき、作業中には労いの声をかけていただき、前向きに作業を継続することができました。「一致団結」の意味は集団や組織の大勢の人々が、特定の目的を達成するために、心をついに協力しあうことです。まさしく今回のカルテ整理が行えたのは、多くのスタッフが一致団結して行った結果だと思います。今後も様々な問題や苦難が起こっても、一致団結して乗り越えていきたいですね。

看護教育主任 小川さなえ(精神科医学会認定看護師)